

川柳

干し柿の乾かぬ内に葍へたの跡

今川 昇

両えくぼ魅力だったが今は皺

磯部 佳子

言われると「やりたくないの」大人でも

藤井 節子

燃え残る卒そつじゆ寿の会が物足りぬ

藤井 絹枝

稲雀いなすずめくつつたくと腹を見せ

永田 政子

どうしても拘こたわる心ついてくる

坪郷 英美子

俳句

物干しのシャツに温もり冬隣

田中 孝利

運ぶ手の皺の深さや今年米

春吉 智子

蓑虫みのむしの枝も活けをり村の店

林 保江

一枚を羽織る朝餉あさげや冬隣り

貞弘 和子

はぜの木のもみじ葉となり在所知る

馬場 精作

縁側の切り干し大根香り来る

湯面 栄子

短歌

万葉の姫のめでたるめはじきがまだ暑き夕友より届く

中司 和子

堅すぎる人の甲羅こうらをぶちこわしシホンケーキの様に食べたい

山口 正子

谷川を辞世に詠みし父の歌もはや覚おぼゆは我一人かも

原田 みすず

軒下のきしたに夜なべの干柿暖簾ほしがきのれんのごとつるされ朝日に映えりまぶしも

江川 詳子

文化祭終わりにホッと溜息を子等らの挑戦人形浄瑠璃

川本 禮子

永久齒のちよこつと生えた孫の言うばあばも早く生えるといいね

賤間 由美子

自由律俳句

「母さんのうた」 つぶやきながら夜なべ

岡部 雅江

空が青いから少し高めのハイヒール

松下 満江

亡母の想い出たくさんのなす

西岡 悦子

パスワードどこかに隠れている

岡村 裕司

まつさおな空に託す 平和

田中 律子

音もなく散る落葉おちばが愛を語る

田中 久代